

『精神看護』 精神障がい者への 想像力を高める 教材



監修・企画・原案：郷良淳子・武井麻子／定価：各巻 29,000 円＋税／
発行：株式会社ビデオ・パック・ニッポン／TEL：03-3405-3173

精神看護学実習に臨む学生の多くが、実習前に精神障がい者と向き合うことへの不安と緊張を口にする。学生のもっとも不安とするのがコミュニケーションである。他者との生身のコミュニケーションの機会の不足と未熟さ、体験したことのない未知の領域への不安がもたらす心的葛藤である。多くの先生方も、こうした学生の対応に悩まれていると思われる。

一方で、精神障がい者にとっては、「自分を受け入れてもらえること」「自分の話をちゃんと聴いてもらえること」「自分の気持ちをわかってもらえること」が回復にとって必要である。

学生は、このDVDを観賞することで、これまで不足してきた「他者から学ぶ・他者を通して自分を知る」「自分を見つめる」ことを学び、成長する機会になると思う。

第1巻の「精神障害者の地域生活支援」では、それぞれの事業所の担当者が精神障がい者の自己実現への援助とともに、1人の生活者として対応する場面が描かれている。精神障がい者への援助には、患者ではなく生活者としての視点が求められることを学ぶことができる。

第2巻の「精神疾患の理解と看護 統合失調症」では、患者を擁護する立場である看護師としてのあり方を示唆する内容が描かれている。就労支援の実際、差別、生きにくさへの共感が精神障がい

者の理解には必要不可欠である。退院後の生活をアセスメントすることで、よくなろうとする患者の自己実現のための看護・よくなろうとする気持ちをもたらし看護を感じ取ることができる。

第3巻の「精神疾患の理解と看護 摂食障害」では、入院生活でのミーティングの体験が紹介され、率直な気持ちを淡々と語る当事者の姿が描かれている。このミーティングは、患者が自分のことを考える時間と場所を与えてくれる場と述べられている。そして、人としての成長の場だからこそ看護師の役割を考えることが示唆されている。また他者との関係の中で自分を見つめる体験が対人関係に重要であり、看護師にとって必要な要素であることを学ぶことができる。「他の患者に励ましてもらってうれしかった」と述べられている場面がある。受容され共感されることの安心感は、当事者だけでなく、誰でも体験することであり、この当たり前のことが実は重要な精神看護であることに学生は気づくであろう。

対象を1人の生活者として理解し寄り添うためには、自らも生活者としての想像力が必要となる。これまで受身的に順応する生き方をしてきたと思われる学生にとって、精神障がい者の生の姿を映像を通して理解することは非常に有用であり、学生が当事者たちに対し、人としての深く大きな尊敬の念を抱く助けとなるように思う。